

アワーミュージアム

第 13 号 2000年6月10日発行



賀茂川と阿波

かめい ただお
亀井節夫（前博物館長，友の会会員）

博物館を辞めて早いもので1年，このところ，よく，自宅の近くの賀茂川に沿って散歩をすることにしています。京都の町を南北に流れる鴨川の上流が高野川と賀茂川で，それらは御所の東で合流しますが，賀茂川の流れに沿っては河原が公園としてよく整備されていて，そこを気ままに歩くのは楽しいことです。

河原にはいろいろな鳥がいて，双眼鏡を片手に種類を調べたり，群れの行動を観察したりできます。冬にはユリカモメが沢山見かけられたのですが，櫻の季節が終わるとともに見かけられなくなりました。今では，マガモが泳ぐ側で，哲学者のような顔をしたアオサギが素早く魚を捕らえたり，セグロセキレイが水面をかすめたりしています。

櫻が満開であった兩岸の堤は，今では青葉に包まれ，河原では白いユキヤナギに代わってチョウセンレンギョウが黄色く咲き乱れています。京都の三大祭の一つである葵祭に先立つ賀茂の競べ馬がありました。『徒然草』には，この5月5日の賀茂の競べ馬の見物のために「あふち」の木によじ上り，うっかり居眠りをして落ちそうになり，皆をハラハラさせた男の話がありますが，この「あふち（オウチ）」と



賀茂川のアオサギ

いうのは梅檀のことです。『千載集』に，“ふかみどり若紫に染めてけりあふちまじりの茂み木立は”とあるように，初夏には，藤と見間違ふような薄紫の美しい小花を咲かせます。「あうち」は，北山大橋と北大路橋の間の東岸にある府立植物園の中の「半木の森」で見ることができます。“なからぎ”というのは“流れ木”に由来するのだそうですが，この森は，ムクノキ，エノキ，ケヤキの古木やサイカチ，カツラ，カエデなどの落葉樹にシロダモ，カゴノキ，カシなどの常緑樹が混生し，京都盆地の昔の森の姿を留めています。この森の薄暗い木立の中に「半木神社」という小さなお社があります。この地は，古く平安の頃は錦部の里とよばれ，機織りの人たちが住んでいた所でした。その多くは阿波からの人達で，忌部氏の開祖の天太玉命を，わざわざ阿波から勧請してこの半木神社に祀ったのだそうです。お社の向かって右手のイチイガシの大木の横に，高さ10メートル，樹幹の径が60センチもある巨木が空に向かって枝を拡げていますが，これが「あうち」です。斜め横に突き出たその太い枝振りを見ていると，先程

の『徒然草』の話が思い出されるのです。

このように，「あうちの森」で，図らずも天太玉命に出会うことになりましたが，この森が阿波に繋がっていることを知り，賀茂川の散歩はますます楽しくなってきました。



半木神社

友の会行事報告



園瀬川探検（第1回）報告

さとう よういち
佐藤陽一（博物館学芸員・動物担当）

今年度からの新しい試みとして「園瀬川探検」をシリーズで開催することは、すでにお知らせしたとおりです。今年度から来年度にかけては、流域の大まかな様子をつかむために、まず河口から源流まで歩いてみようということで、その第1回目を5月28日（日）に開催しましたので、ご報告します。

園瀬川は、^{さなごうち}佐那河内村の^{おおかわら}大川原高原旭ヶ丸（標高1019.5m）を源流とする25.5kmの2級河川です。今回は、河口に近い津田橋から文化の森公園までの約8kmを、7名の会員の皆さんと一っしょに歩きました。

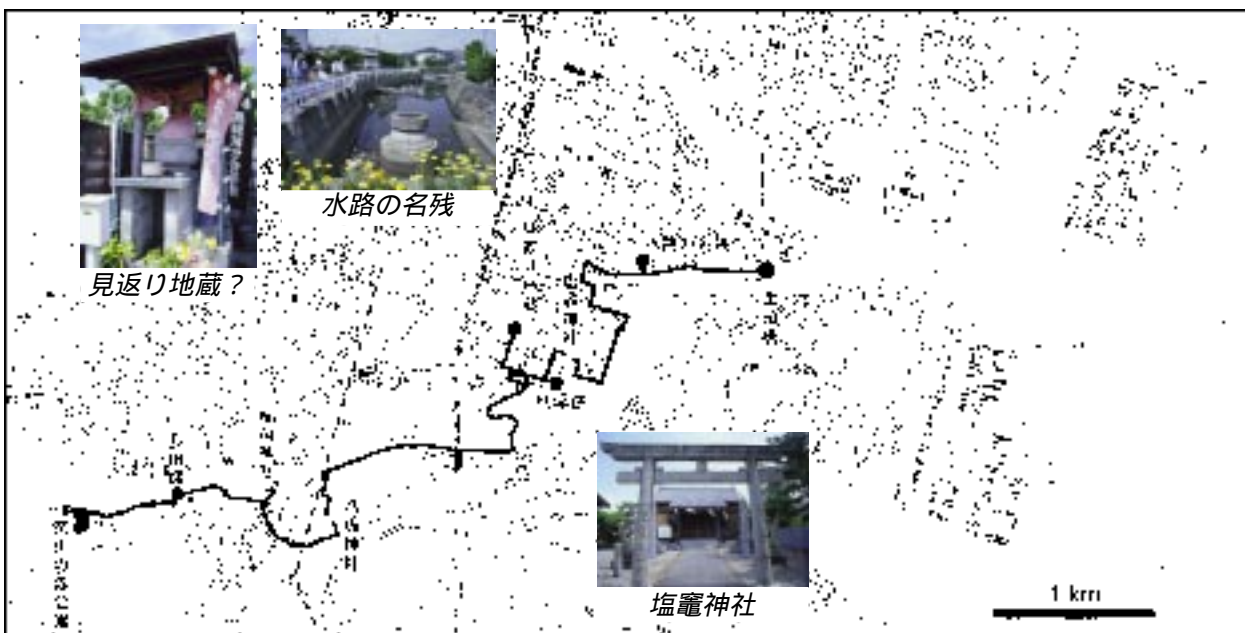
現在の地形図と昔の地図（昭和12年発行のもの）を見くらべながら歩きましたが、その変化の大きさには圧倒されました。とくに園瀬川支川の^{ごさぶね}御座船川の河口にあたるアスティとくしま周辺（昭和町から南昭和町、山城町の付近）は、かつては塩田が広がっていた場所なのですが（一部は昭和34年まで残存）、今では都市化が進み、住宅などに覆い尽くされ見る影もありません。それでも

昔の水路の跡や、わずかに残った石垣、塩竈神社などに昔の様子をとどめていました。また、現在は使われていませんが、水面から突き出たたくさんのコンクリート製の杭が、貯木場としてにぎわった頃を忍ばせていました。

さらに進むと、支川の冷田川の合流点の北側には八万ポンプ場や徳島文理小学校があります。この付近は昔の刑場跡だそうで、かつてはこの付近一帯は市街からも離れ、何もなかったところだったでしょう。その北側の山城公園の一角に、^{ばとうかん}馬頭観音を祀った小さな祠がありますが、^{のんまつ}寺戸会長さんの話では、これは一名「^{ほこら}見返り地蔵」と呼ばれていたものだろうとのこと。刑場まで護送される囚人がここで最後に目にしたお地蔵さんがこれなのだそうです。

このように 同じ歩くのでも、昔の様子をちょっとだけでも調べておいて歩いてみると、同じ風景でも違って見えるから不思議ですね。

さて、第2回園瀬川探検は7月23日（日）に実施の予定です。第1回と異なり、文化の森から出発して、またここに戻ってくる八万町～上八万町を周回するコースを歩く予定です。皆さんふるってご参加ください。



第1回園瀬川探検ルートマップ（国土地理院2万5千分の1地形図「徳島」平成9年修正測量）

博物館紹介12



美郷ほたる館

ひらしま みち
平島 迪 (西麻植小学校3年, 友の会会員)

家族で美郷の「ほたる館」に行きました。「ほたる館」では館長の佐藤さんが案内して下さいました。まず、私がすごいと思ったことは、この「ほたる館」ができたもとのきっかけは、美郷村の小学生の夏休みの自由研究だということです。昭和41年から中枝小学校でほたるの研究が始まり、その熱心な活動が実って昭和45年に国の天然記念物になりました。そして、「ほたる館」をつくらうという運動がはじまり、今年の4月に完成しました。本当にすごいと思います。



美郷ほたる館の外観

「ほたる館」は、大きく分けて3つに分かれています。むぎわらで作った「ほたるかご」のあるエントランスホール、その下の階ではホタルの一生がよく分かる映ぞうやパネルの展示、それと美郷村の自然と生活の紹介、その下の階ではホタルが飼育されていてほたるの産卵から成虫までの一生が観察できます。またホタルのエサのカワニナや川魚も飼われていました。

私は、ホタルを明るいところで見たことがなかったので、ホタルのことはあまり知りませんでした。ただ実際に観察して、おしりの光ぐあいでおスとメスが区別できることが分かりました。オスの光る場所は大きく、メスは小さく赤いところがあります。実際に見ると、とてもおもしろいです。こんど

は本当に飛んでいるところをみたいです。ホタルがよく飛ぶのは、6月の蒸し暑くて、風のない、満月でない夜の8時から9時ぐらいだそうです。でも、飛んでいるホタルは、ほとんどオスだということも教えて下さいました。



ほたるかご

私は「ほたるかご」を初めて見ました。とてもきれいなので買ってもらいました。「ほたるかご」をつくる体験教室があるので、またここに来て作りたいと思います。その他に、「炭焼き」や「かずらを使ったクリスマスリース作り」などもあります。私は、見学した後で、すぐ下にある川田川で水遊びをしました。水槽にいた魚が、たくさん泳いでいてびっくりしました。こんなきれいな川だからホタルが住めるのだな、と思いました。

「ほたる館」ではいつでもホタルのことが勉強できます。徳島からは国道192号線を通り、山川から国道193号線におれて6kmのところにあります。徳島からは車で約1時間です。

美郷ほたる館

休館日：毎週火曜日（祝日の場合は水曜日）、
年末年始（ただし、5月20日～6月20日は無休）

開館時間：午前9時～午後4時30分（ただし、
5月20日～6月20日は午前9時～午後9時30分）

入館料：高校生以上600円/小中学生300円

[問い合わせ先] 美郷ほたる館

〒770-3501 麻植郡三郷村大字別枝山字宗田
82-1

TEL (0883)43-2888

FAX (0883)26-7010

<http://www.tcu.or.jp/misato/hotaru/>

わが町・わが家の宝物



祖父がくれた宝物

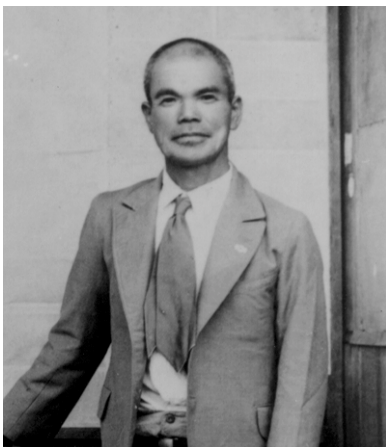
ふくとみ みちこ
福富美智子（友の会会員）

私の祖父は、石材の仕事をしていました。土建業と農業をやっていたのですが、屋根から落ちたのが原因で、亡くなるまで7～8年、寝たきりの状態になってしまいました。窓際のベッドで、いつも外の方を向いて寝ていた祖父の背中が、今でもはっきりと思い出すことができますが、抱かれたことも、一緒に遊んでもらった記憶もありません。それでも私は、祖父のことが大好きでしたし、母は、よく祖父の話をしてくれました。酔って折り詰めを持って帰り、寝ている子どもたちを無理に起こす話などは、光景を思い描くことができ、何度聞いても楽しいものでした。そんな祖父が、口癖のように母に言っていたのは「美智子が泣いたら、何をおいても、すぐに駆けつけるように」という言葉だそうです。祖父の寝ていた窓の下は、孫たちの遊び場だったので、窓越しの声で、私の引っ込み思案な性格を見抜いていたのでしょう。自分のことを深く理解してくれたこの言葉は、私の自尊心を高める助けになってきたと思いますし、折に触れて心の支えとなっていて、今も私の中にずっと生きています。

こんな祖父の優しさを、思い起こすことができたのは、祖父が、仕事にケわった旧県庁舎の門塀でした。旧県庁舎の横を通るたびに、何かしら安心するような、うれしい気持ちになったもので

す。時は流れ、新庁舎が完成したとき、祖父の塀もなくなり一抹の寂しさを感じていました。

ある日、文化の森を散歩中に文書館の裏で偶然、旧県庁舎の



祖父、増田多平の肖像



徳島県庁旧庁舎（徳島県議会史第1巻、1972より）

塀を見つけたときは、よくぞ残してくれたという感謝の気持ちでいっぱいでした。残念ながら、塀に関しては当時のデザインをもとに、セメントで型どり、石のような仕上げをし、当時を再現したものだそうです。



復元された門塀

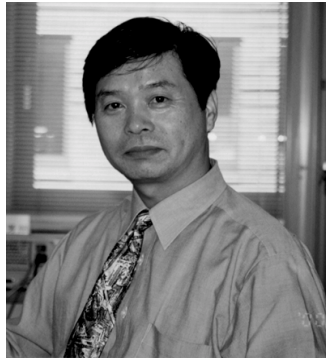
文書館では、旧県庁舎の設計図や完成時の堂々とした全景の写真などを見せていただいたり、話を聞かせていただき興味深かったです。旧県庁舎は、昭和5年に完成したそうですが、何枚もの設計図から、当時、庁舎としては、日本でも有数の建造物であったことが理解できました。文書館には実際に旧庁舎から移築された部分もたくさんあり、改めて眺めると本当に美しい風格のあるたたずまいでした。祖父もこの仕事をさせてもらったことを誇りに思っていたことでしょう。

今、私は、2人の子どもたちに、そして、将来あえるであろう孫たちに、祖父と同じように宝物を残すことができるだろうかと思う日々です。

事務局スタッフ紹介

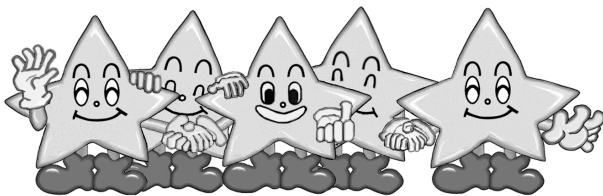
やまぐち えいじ
山口英二（博物館普及係長）

私は博物館にきて2年目になります。2年目といってもまだ駆け出しで、職員の皆さんに助けてもらってばかりです。ここへ来るまでの23年間は、中学校で勤務をしていました。教科は理科で、部活動では、サッカーをはじめテニス、バスケ、柔道などいろいろな部の顧問を経験し、今でもうずうずしています。幼い頃はセミ取りや魚釣りに熱中しすぎて、親によく心配をかけ、やんちゃ坊主であったように記憶しています。



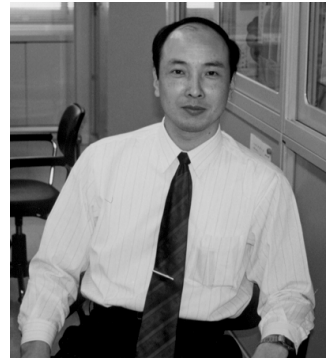
ところで、私が星の世界に魅了されるようになったのは、ハレー彗星が最接近した1986年のことです。地域住民の関心の的だったこともあり、「ハレー彗星をみんなで見よう」という催しを企画しました。当日はたくさん訪れてくれたものの、天体望遠鏡の自動追尾装置が故障していて、大変な労力と時間を費やしました。いくぶん飽きてきた頃、少女が「うわーすごい」と叫んでくれ、なんだか心を癒してくれた気がして、踏ん張ることができました。

少女の何気ない言葉によって、星への思いを一層強めてくれたように思います。「言葉は人の心を動かしてしまう」ということをいつも念頭において、博物館普及係としてがんばりますので、どうぞよろしく願いいたします。



さかもと かずひろ
坂本和裕（博物館普及係主事）

4月の異動で、博物館に勤務することになりました。元々小学校の教員なのですが、この2年間は阿南市の適応指導教室で、不登校の子どもたちとともに活動してきました。子どものいない生活など、考えてなかったものですから、博物館への異動を知った夜は、正直言って眠れませんでした。赴任した当初は、長時間いすに座っていると、お尻がムズムズしました。大きな声を出したり、運動場を走り回ることもないので食欲も減退気味でした。しかし、2カ月がたち、少しは仕事にも慣れ、山口係長の足を引っ張り、ハラハラさせながらも何とか勤めさせていただいております。



小学校勤務当時の趣味は、ミニバスケットの指導でした。現場を離れた今は、新たな趣味を見つけようと、先日も学芸員さんに勧められて、ルアーフィッシングの用具を購入しました。長所は、楽天的なところ。短所は、詰めの甘いところだと自己評価しています。

子どもたちとふれあいが少なくなったのは淋しいですが、博物館でなければ学べないことをしっかり吸収したい。博物館に来なければ、おそらく知り合うこともなかったであろう方々との出会いを大切にしたい。そのように考えています。元気・やる気をモットーにがんばってまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



友の会行事の記録

こどもの日フェスティバル

場 所：博物館 2 階常設展示室

日 時：5 月 5 日（金）9：30～15：00

参加者：1,500 名

友の会活動の紹介と博物館活動の活性化をめざして、博物館との共催事業として、こどもの日フェスティバルを実施しました。本年はワイワイクラブのご協力をいただき、貫頭衣をモデルとした衣装などを着るもよおしと、徳島おりがみ研究会による恐竜のおりがみコーナーを行いました。開館前より、玄関に行列ができるほどの盛況ぶりで、終日にぎわいました。子どもたちは、記念撮影をするなどして楽しい一日を過ごしました。



古代の衣装を着るコーナー



おりがみコーナー

初夏の研修会

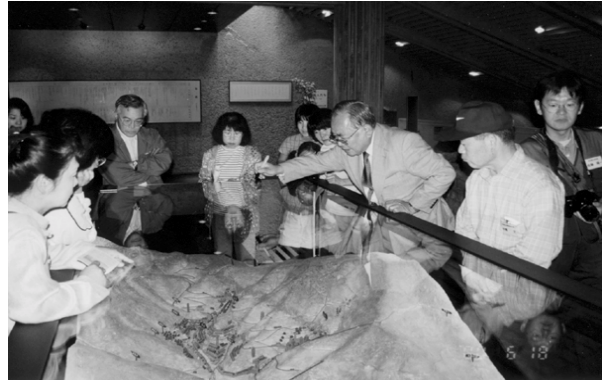
場所：別子銅山記念館【愛媛県新居浜市】

愛媛県立総合科学博物館【同】

日時：6 月 18 日（日）9：00～18：30

参加者：47 名

梅雨のまっただ中ということで、天候が心配されたのですが、雨に降られることもなく、日焼けを気にすることもなく実施することができました。別子銅山記念館では、上垣館長さんから深みのある展示解説を聞かせていただくことができ、時間があっという間に過ぎてしまいました。



別子銅山記念館

愛媛県立総合科学博物館では、ギネスブックにも載っているプラネタリウムで満天の星空を満喫することができました。行き帰りのバスの中では、寺戸会長の地形、特に中央構造線の解説などがあり、中身の濃い研修ができました。



愛媛県立総合科学博物館

【初夏の研修会】参加者のご意見

- ・往路からの活断層の説明は、とても興味深く聞かせていただきました。別子銅山記念館はもう少し時間がほしかったです。
- ・楽しい研修会でした。科学博物館では、子どもも大喜びでした。香川のさぬきこどもの国もそうですが、体験型で知識を深めることは、とても楽しいようです。あちらこちらと時間の限り、飛び

回っておりました。外観内容ともにモダンですばらしい科学博物館でした。

・大変楽しい1日を過ごすことができました。別子銅山のお話も、^{おおやまづみ}大山積神社の境内に記念館を作ったお話もおもしろく聞かせていただきました。科学博物館では、世界一のプラネタリウムの巨大さにびっくりしました。充実した展示を十分楽しむことができました。

・高速道路が全通して、愛媛県が身近に感じられました。別子銅山記念館では、館長さんの説明がお上手でもっともっとゆっくり見学したかったし、現地にもぜひ、足を運んでみたくなりました。このように説明していただくと、個人で行ったときには得られない収穫があつてうれしいです。

・寺戸会長さんのご説明で、中央構造線の様子が分かりよかったですと思います。別子銅山記念館も身近に感じることができました。科学博物館では、もう少し時間があればよかったのです。プラネタリウムは広く立派でしたが、もう少し最近の状況を加えれば、より見応えがすると思います。

・研修目的が無理なく組まれ、時間の余裕があつたのは大変ありがたいことでした。ただ、別子銅山記念館での見学時間が少なかったのが残念でした。総合科学博物館のレイアウト、館内の展示等は感心をしました。今後もこのような企画が数多くあればありがたいと思います。



記念写真（愛媛県立総合科学博物館）

平成 12 年度友の会総会の報告

5月14日午後1時より、博物館3階講座室において、友の会総会が開催されました。

15名の参加をいただき、11年度の事業および決算報告・監査報告、12年度の事業および予算案についての審議が行われ、承認されました。

平成 12 年度友の会事業計画

- (1) 役員会、総会の開催
- (2) 友の会行事の実施
- (3) 会報『アワーミュージアム』の発行
- (4) 博物館発行の展示解説・図録等の増刷および販売
- (5) 博物館催し物等の案内：博物館ニュースのほか、毎月の催し物案内、企画展チラシ等の送付
- (6) その他：常設展無料観覧、ミュージアムショップの利用割引、図録の購入割引

平成 12 年度友の会の行事（予定）

- ・こどもの日フェスティバル【博物館常設展】
5月5日（金）
- ・第1回園瀬川探検【園瀬川河口～文化の森】
5月28日（日）
- ・初夏の研修会【愛媛県、別子銅山記念館・愛媛県総合科学博物館】
6月18日（日）
- ・第2回園瀬川探検【文化の森～上八万西地】
7月23日（日）
- ・夜の昆虫かんさつ【佐那河内村】
7月29日（土）
- ・第3回 園瀬川探検【上八万西地～佐那河内村高桶】
10月下旬頃
- ・写生大会【博物館常設展】
11月3日（金）～5日（日）
- ・秋の研修会【奈良県 飛鳥地方】
11月25日（土）～26日（日）
- ・七草がゆ＆草だんごづくり【博物館実習室】
2月4日（日）

・企画展説明会

平成 11 年度決算および 12 年度予算

(収入)

項目	11年度予算	11年度決算	12年度予算
前年度繰越金	43,052	43,052	177,823
会費	510,000	538,000	510,000
登録料	868,500	1,694,600	911,000
行事参加負担金	225,000	212,900	280,000
雑収入	50,000	84,902	50,000
合計	1,696,552	2,573,454	1,923,823

(支出)

項目	11年度予算	11年度決算	12年度予算
登録印刷費等	480,000	997,585	440,000
館利用保証費	80,000	49,433	80,000
行事費	575,000	556,368	650,000
通信費	300,000	474,450	450,000
事務局費	87,552	66,065	93,823
報償費	48,000	38,000	48,000
事務局整備基金積立	50,000	200,000	100,000
総合案内積立金	96,000	68,720	80,000
次年度繰越金		177,823	
合計	1,696,552	2,573,454	1,923,823

『藍のよそおい』説明会

5月14日(日)

『侵入者たちー外国からやってき

た生き物たちの光と影ー』説明会

8月20日(日)

『世紀末博覧会』説明会

11月12日(日)

* 行事についての詳しい案内は、
随時お送りします。ふるってご
参加下さい。

平成12年度友の会役員

(* 新役員, 他は留任)

会 長: 寺戸恒夫

副会長: 天羽利夫(博物館長)・和田賢次・

真貝宣光

幹 事: 石原侑・徳山豊・多田精介・森本嘉訓・

鎌田幸子・関真由子・南部洋子・

榎原剛一*・竹原初江*

監 査: 森本康滋・川下浩子

園瀬川探検

本年から「園瀬川探検」と題して園瀬川の園瀬川流域の自然と文化を訪ねて会員自らが調べるとい調査を始めました。本格的な調査の下見として河口～から源流まで歩く予定です。今年度は3回に分けて実施する予定です。

内容については、第1回目の報告を参考として下さい(本号p.2)。参加者はやや少なかったのが残念でした。第2回目は八万町～上八万町の文化の森を起点とした周回コースです。興味のある方はぜひご参加ください。

友の会事務局メンバーが一部変わりました

今年度は^{くさか}日下武久(事務局長), 米益麻夫, 山口英二, 坂本和裕, 高島芳弘, 佐藤陽一となりました。新しい企画「園瀬川探検」も増え, がんばっています。みなさんのご協力よろしくお願ひします。

《事務局からのお知らせ》

12年度友の会会員

6月20日現在の会員数は家族会員97組374名, 個人会員103名, 計477名です。積極的に友の会活動に参加してください。また, 友の会の活動, 行事の内容について提言くださるようお願いいたします。

会報「アワーミュージアム」の原稿募集

会員のみなさんの原稿を募集しています。専門分野での研究成果の発表はもとより, 身の回りのできごとで博物館に関係のあることなど, どんどんお寄せください。

13

第13号

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



June 2000
Tokushima
Prefectural
Museum

2000年6月10日 発行:徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197